



島根 JAいずも

# 現場の窮状訴え

## 危機突破大会に1100人

【島根】JAいずもと出雲市農政会議は3日、出雲市のJA本店前で、農業経営危機突破大会を開いた。管内の組合員と生産者ら1100人が参加。原油・飼料・肥料などの価格高騰に伴う未曽有の経営危機を関係機関一丸で突破するため、大

会宣言を採択。総合的な支援策を要望した。大会は県内のJA段階では最大規模。国会、県・市議会議員や市長も出席した。

JAの萬代宣雄組合長はあいさつで「農家経営は大変厳しく、離農者も出ている。消費者に農業の厳しさと実態を知って

ほしい」と生産現場の窮状を訴えた。畜産農家代表の伊藤学さんは「減産型生産調整の拡大と乳価下落の上に生産資材の価格高騰が重なり苦しい」と話し、脱落者が出ないよう早急に支援策をと訴えた。

また、山田俊男参院議員は「畜産、稲作、果樹

資材高  
シヨツケ

園芸の全体で行う複合的な取り組みを地域で守ってほしい」「食の安全・安心を確保するために国の政治経済の流れを変えていく」と参加者を激励した。

大会終了後、参加者は市内をデモ行進し「将来の出雲農業を考えよう」と、消費者に農家経営の窮状と地産地消の重要性を訴えた。

消費者に農業への理解を訴えた危機突破デモ行進（3日、島根県出雲市で）